

まちづくりワークショップにおける参加者の意識変化に関する考察

熊本大学 学生会員 ○日名子葵 熊本大学 学生会員 高良幸作
熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

現在、地域コミュニティの衰退などによる、街の衰退・低迷及び、それと連動した街の将来への不安という厳しい現状に対して、シビックプライドの概念を取り入れつつ、行政と研究者が連携し、まちづくりの活動を通じて現状を打開しようという動きがなされている。

本研究の目的は、まちづくりの場において高校生がシビックプライドを涵養していく要因、過程を明らかにすることである。そのため、地方都市におけるまちづくり WS のプログラムと参加者の意識変化の関係性について考察した。

2. まちづくりにおけるシビックプライドの役割

(1) シビックプライド

シビックプライドは伊藤¹⁾によると「都市に対する市民としての誇り」と定義されている。単に地域に対する愛着を示すだけではなく、「シビック（市民の/都市の）」には権利と義務を持って活動する主体としての市民性という意味があり、シビックプライドには「自分自身が関わって地域をよくしていこうとする、当事者意識に基づく自負心」という意味が内包されている。既往研究²⁾に従い、本研究ではシビックプライドの構成要素として「愛着」「誇り」「自負」の3つをあげる。

(2) アクティブラーニング

文部科学省は「能動的で対話的な深い学び」というアクティブラーニングの視点からの教育を推進しており、学習指導要領（平成29年3月31日公示）でも「主体的・対話的で深い学び」に関する記述がある³⁾。そこで本研究では、この二つの概念を分析のフレームとし、まちづくり活動の当事者の意識変化を分析した。

(3) 意識変化分析のフレームワーク

(1)(2)から、アクティブラーニングの「能動的」という視点はシビックプライドの自負、つまり主体性に、「対話的」という視点は誇り、つまり他者への意識に、「深い学び」という視点は「愛着」つまり「知ること」と連結していると考え、この連結構造を本研究の分析の主軸とする。

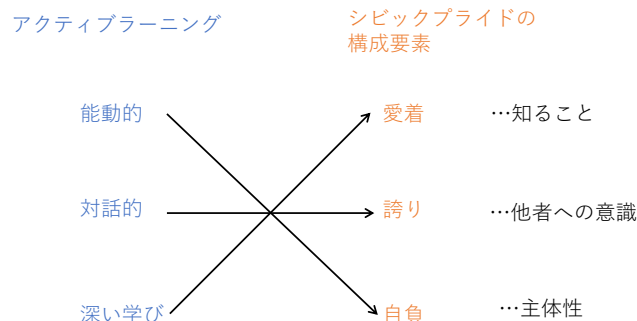


図-1 分析の構造

3. 玉名未来づくり研究所事業の概要

本章では、対象地として選定した玉名市及び玉名未来づくり研究所事業について整理した。

(1) 玉名市の概要

熊本県玉名市は、熊本市から北西約20kmの場所に位置する。農業が盛んであり、温泉街や歴史的な街並みを有する地区である。しかし、人口減少、特に若い世代が玉名を離れたまま戻らないことが問題となっている。

(2) 玉名未来づくり研究所事業の概要

このような課題を抱える玉名市では、「私たちが帰ってきたい玉名をつくる」をテーマに「玉名未来づくり研究所」というプロジェクト型コミュニティが発足した。全六回にわたって、ゲスト講師の講演とWSが行われた。表-1に詳細を示す。

4. ワークショップ参加者の意識変化の分析

本研究では、参加者の意識変化の過程を追い、変化の原因を明らかにするため、各回終了後に振り返りアンケートの配布を行った。また、全六回が終了したのち高校を訪問し、1時間程度グループインタビューの形式でヒアリング調査を行った。その際、「私たちが帰ってきたい玉名をつくる」という研究所の目的を踏まえて、「玉名に帰ってきたい度合い」と題したグラフを記入してもらい、その理由を説明してもらった。また、最後に『玉名未来づくり研究所の活動を通じて「能動的」「対話的」「深い学び」の中でどれが一番大切だと思うか』という質問を行った。

表-1 WS 全六回詳細

	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回
日時	8/22	9/12	9/19	10/10	10/24	11/8
場所	zoom	玉名文化センター大研修室 及び zoom	玉名文化センター大研修室	玉名市民会館第一会議室	玉名文化センター大研修室	玉名文化センター大研修室
講師	熊本大学工学部田中尚人先生 古民家再生機構村田さん ひまわりテレビ種子島さん	九州財務局 渡邊隆司氏	九州産業大学地域共創学部 講師 佐藤忠文氏（zoom）	オープン・ガバナンス・ネットワ ーク代表理事 奥村裕一氏 熊本県立大学環境共生学部 松添 直隆教授 九州看護福祉大学リハビリテーシ ョン学科 中野聡太准教授	熊本学園大学塚章教授 NEG ソリューションイノベーター （株）九州支社上田健治氏	熊本大学工学部田中尚人先生
講演内容	村田さん 「建築と不動産の間の仕事を 自分で作る」ということ 種子島さん 「何もないとダメなの？」	五感で地域の宝を探そう —RESASを用いた地域活性化 戦略—	「想いをカタチに」 ～プロトタイピングしよう	①熊本の農業・玉名の農業 ②福祉・看護について ③デザイン思考について	「玉名で1億円儲けよう」	最終発表会
班決め	運営側がグルーピング	運営側がグルーピング	運営側がグルーピング	意見が似ている人と集まる	ファーマーズ：続行 そのほか：良いと思った意見 の人とグループになる	第五回の班を継続
ワーク内容	「自慢できる玉名は何？」 「私だけが知っている玉名は どこ？」 「この研究所でやってみたい ことは？」	地域の宝を探し出し、組み合 わせ、玉名に人を呼び込む戦 略を立てよう	・イチゴ箱のリニューアル ・玉名駅のリノベーション 実際に玉名駅に行ってみる、 イチゴ箱を作ってみる	以下の質問の書かれたワーク シートを記入し、各々発表した のち、グループに分かれる ①「あなたは玉名に住んでど うしたら成功できるのか？」 ②「そのために、何を玉名 （地元）でやりたいのか？」	アイデアソン →みんなの意見に投票 →投票数の多かったアイデア 5つに分かれてグループワー ク →ひまわりシートの作成	発表会 みんなで評価しあう

(1) 事前・事後アンケートの分析

各回終了後に実施した振り返りアンケートから、参加者の意識変化の一つとして、主体性形成が現れたことが分かった。以下に、主体性が形成されたとみられる参加者の回答例を述べる。

A氏：今までは聞く側や共感する側ばかりだったが、他の人の意見を聞き、自分の意見を言って、話し合いに主体的に参加することができた。

B氏：とてもあたたかくて皆を認め合える雰囲気があったので、自分から意見を出せるようになった。

C氏：前はあまり関わって話せていなかったが、自分の案が採用されたので、中心となって関わることができた。

(2) 振り返りワークショップの分析

2020年12月10日、11日の二日間にわたり3校を訪れ、振り返りWSを行った。表-2にヒアリング調査対象者の詳細を示す。図-2に記入してもらった「玉名に帰ってきたい度合い」のグラフを示した。

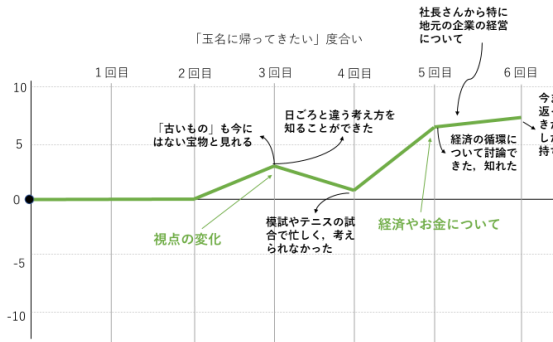


図-2 振り返り曲線

表-2 調査対象者概要

	高校	学 年	性 別	出席回	シビックプ ライド
A	専修大学 玉名高校	2年	女	2, 3, 4, 6	能動性
B	専修大学 玉名高校	2年	女	3, 4, 5, 6	深い学び
C	玉名女子	2年	女	1, 2, 3, 4	対話性
D	玉名女子	2年	女	1, 2, 3, 4, 5, 6	深い学び
E	玉名女子	2年	女	1, 2, 3, 4, 5	能動性
F	玉名高校	1年	女	3, 5, 6	能動性
G	玉名高校	2年	男	3, 4, 5, 6	能動性
H	玉名高校	2年	男	3, 4, 5, 6	能動性

5. おわりに

以上のように、ワークショッププログラムと参加者の意識変化の因果関係を考察し、シビックプライド涵養の要因、過程について明らかにする予定である。

参考文献

- 1) 伊藤香織:シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素-富山市中心市街地と富山地域を事例として-, 日本都市計画学会都市計画論文集 Vol.54, No.3, 2019
- 2) 伊藤ら:シビックプライド 2 都市と市民のかかわりをデザインする, 宣伝会議, 2015
- 3) 文部科学省ホームページ「新しい学習指導要領の考え方」
2020/12/26 閲覧